

す。なお、ソルゴーは、イタリアンライグラスやテオシントなどの作物と異なって、刈取った切口から再生するのではなく、刈取った株の下の節から分けつ芽として再生するので、あまり高刈りするとまた分けつ芽の発生が押えられる結果となります。収量は生草で10a当たり6,000~10,000kg程度は可能でしょう。

7 混播牧草

混播牧草は各作物とのつなぎ飼料として、また、きわめて省力的な作物として重要ですが夏枯れなどのために収量は上がらず、最近では栽培面積が少なくなっています。

草種はイタリアンライグラス、アカクロバまたはラジノクロバ、オーチャードグラスの3種混播が多く、9月中旬~10月上旬にかけて、イタリアンライグラス0.5~1.0kg、アカクロバ0.5kg(ラジノクロバの場合は0.3kg)、オーチャードグラス1.0~2.0kgを混ぜ、10aあたりに散播します。

施肥は10a当たり、基肥に堆肥3,000kg、石灰100kg、窒素5kg、リン酸10kg、加里10kgを与え、追肥は融

雪後、窒素5kg、リン酸10kg、加里5kg、その後、刈取り後毎回窒素5kg、加里3kgを与えます。

収穫は4月下旬~10月下旬まで5~7回刈取りを行ない、生草収量で6,000~8,000kgは期待できます。

8 作付体系

以上、北陸地方に栽培されている、主要な飼料作物について述べましたが、これらを組み合わせた作付体系はいろいろであり、最も多い水稲+イタリアンライグラスを始め、第3図に示すような、いくつかの体系で行なわれています。

最後に北陸地方の飼料作について展望しますと、水田単作地帯の飼料作というのは、常に高位生産と省力という、あい反する指標を掲げながら、稲作と調和していかなければならないところに多くの問題を含んでいると思います。このことは、栽培技術上だけで解決できる問題ではなく、農業全体の問題として、今後、組織的に推進する必要があると考えられます。

栽培がやさしく 収穫時期が長く ブロッコリー 楽しめる

アメリカの園芸カタログでは、次のように記されている。

キャベツやカリフラワーと同じあぶらな科で花蕾を食する花菜類である。最も栽培が容易で、すばらしい風味と豊富なビタミンを有する野菜で、生食、罐詰、急速冷凍用として、市場用および家庭用に供せられる。早春に播種すれば夏季着蕾し、初夏に播けば晩夏から秋にかけて長期の収穫利用が期待できる。1g粒数約210粒である。代表的品種は早中晩生種で次のとおりである。

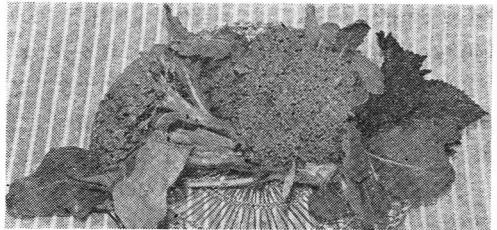
ドシコー De Cicco 栽培日数60日、早生種として選抜されたもので、濃色、株の中心に大型の花蕾を着生し、腋芽の花蕾生産量も高い。

カラプレス Calabress 85日、中心花蕾はカリフラワーくらいの直径15cm大の青緑色花蕾着生し、これが収穫後、多数の腋芽に小型の花蕾発生する。

グリーン コメット Green Comet Hybrid 40日、オールアメリカン金賞受賞品種、耐暑耐病性一代雑種、極早生、直径17cmの花蕾で斉一。

以上の内容から見てもわかるように大へん作りやすく、キャベツとほとんど同じ栽培法でよい。

育苗について肝心なことは、発芽後あまり高温多湿にすぎると徒長してしまうので、温度を20℃前後



に保つこと、発芽後あまり混んでいる所は適宜間引きして、本葉1~2枚で移植することである。育苗期間は長くて40日くらいで、本葉7~8枚ころである。

苗もそうであるが、定植圃場で特に励行したいのは根粒病対策である。これにはPCNB粉剤、商品名は、ペンタゲン、コプトールなどを苗床なら1m²当たり20g、本圃では一穴当たり6~10g施しよく攪拌しておく。本圃の栽植距離は75~60×60~50cmが標準である。

施肥は堆肥2,000kgに消石灰100kgを全面に施し、元肥はなるべく浅目に成分量で窒素25kg、リン酸13kg、加里15kg/10aを標準とし、少量の追肥を用意する。

害虫対策としてはヨトウムシ——メソミル剤(ランネット水和)アオムシ——カルタップ剤(パダン水、粉)アブラムシ——メナゾン剤(サビゾン水)などがよい。

収穫 ブロッコリーをおいしく食するコツは、蕾がピチッと緊まっている軟かい時期に収穫することである。(岡田)